



「食育」実践の環をを広げる

帯広市における食育

帯広市では、平成29年3月に「第3次帯広市食育推進計画」を策定しました。全ての市民が、心も体も健康で生き生きとした生活を送れる地域を目指して「食育」の取り組みを進めています。

問い合わせ 農政課（川西町基線61番地、☎59・2323）



食育推進体制のイメージ

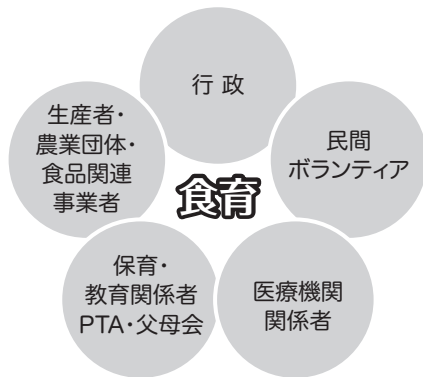


表 食育推進にあたっての数値目標(抜粋)

指標		現状値	目標値 (平成33年度)
朝食を欠食する 市民の割合	小学6年	6.8%	0%
	中学3年	6.9%	
	市 民	9.4%	
野菜を1日3回 食べる市民の 割合	小学6年	41.5%	45%以上
	中学3年	31.9%	
	市 民	34.7%	
牛乳・乳製品を 週5日以上とる 市民の割合	小学6年	75.3%	95%以上
	中学3年	66.4%	
	市 民	53.4%	
食事を家族など と一緒に食べる 児童・生徒の割合	小学6年	93.5%	100%
	中学3年	86.6%	
食育に関心を持っている 市民の割合		82.1%	90%以上
農業(畑作・酪 農)体験をした ことのある市 民の割合	小学6年	96.3%	95%以上
	中学3年	88.6%	
	市 民	70.8%	
地元の農畜産物を よく使う市民の割合		66.2%	70%以上
学校給食における 地場産野菜の導入率		53.7%	70%以上
食育推進サポーター 登録数		26個人・ 団体	35個人・ 団体以上

※現状値は平成27年度現在

近年、核家族や高齢者世帯の増加などに伴い、食を取り巻く環境は大きく変化しています。また、栄養バランスの偏り、不規則な食事といった、食習慣の乱れが問題となっています。帯広市では、市民の心身の健康増進や、食を生かした地域産業への理解を深めるため、「食育推進計画」を定め、平成19年から食育の推進を図ってきました。

朝食の欠食・孤食が増加

平成27年に実施した市民アンケート調査によると、市民の食育に対する関心の高まりなど、取り組みに一定の成果がありました。一方で、小・中学生が朝食を欠

さらに実践の環を広げる

食する割合が増加したほか、食事を家族などと一緒に食べる児童・生徒の割合が減少するなど、依然として課題があります。

みんなで取り組む

これらの課題を踏まえ、平成29年4月スタートの「第3次食育推進計画」により、さらに実践の環を広げる取り組みを進めます。基本施策の成果や達成度を把握するため、主要な項目について数

食育は、食習慣、食べ物や食に関わる人への感謝の心、生産から消費までの循環に関する正しい理解など、広い分野にわたります。そのため、市民、関係機関、行政

が広く連携して取り組む必要があります。

家庭の役割

子どもが基本的な生活習慣を身に付ける上で、最も大切な食育の「学びの場」「実践の場」としての役割を担っています。

保育所・学校の役割

家庭や地域と連携し、子どもが食の大切さや楽しさを学べるよう取り組む役割を担っています。

「食」のプロがサポート

食育を社会全体で進めるため、生産者や農業団体、食品関連事業者、自主的な活動団体などによる幅広い活動が求められます。

関係団体などの役割

利用にあたって、費用は原則無料ですが、材料費などの実費は依頼者側の負担になります。食に関して学びたいと考えている人は、農政課へ気軽に問い合わせください。

サポーターの活動例

▽町内会での食に関する講演会▽学童指導員向けに十勝産食材を活用したおやつ作り教室▽小学生向けに作物の育て方などの出前授業▽中学生向けに地場産野菜を活用したピザづくり教室など

「食育」ってなあに？

「食」について意識を高めるとともに、「食」に関する正しい知識や情報を選択する力を身に付け、健全な食生活を実践できる人を育てることです。



実践しましょう 食育

第3次食育推進計画の基本方針と基本施策

1. 食の環を広げて育む健康な「身体」

▽規則正しい食習慣を身に付ける

朝食を欠食すると1回の食事の量が増えて、肥満や生活習慣病につながる恐れがあります。1日3食が大切です。



▽栄養バランスに配慮した食生活を実践する

主食・主菜・副菜でたくさんの種類の食品を食べましょう。

2. 食の環を広げて育む豊かな「心」

▽食を楽しむ

食事を作ること、みんなで一緒に食べることを楽しみましょう。



▽伝統的な食文化への理解を深める

季節・行事にちなんだ料理に親しみましょう。

▽食への感謝の心を育む

食生活が多くの動植物の命、生産者をはじめ、流通事業者などによって支えられていることを理解しましょう。

▽食の安全・安心に対する理解を深める

消費者自らの判断で、「食」を正しく選択する力を身に付けましょう。

▽食の循環や環境に対する理解を深める

「もったいない」という意識を持ち、食べ残しを減らしましょう。

3. 食の環を広げて育む元気な「地域」

▽地元の食材を使った豊かな食生活を実践する

地元の旬の食材を食べるなど、地産地消を進めましょう。



▽地域の農業や食産業に対する理解を深める

「食」の現場を知り、「食」への関心を高めましょう。

▽食を通じた人と人とのふれあいや交流を深める

生産者や地域の人とのつながりを深め、活力ある地域づくりにつなげます。



小学生へ農業に関する出前授業

認知症・家族の集い「茶話会」 認知症の人を介護している家族の交流会。介護を終えた人や、認知症の人と一緒に参加も可能。手伝いが必要な場合は連絡ください。日7月27日(木)、13時30分～15時 場グリーンプラザ(公園東町3) 費100円 問高齢者福祉課(市庁舎2階、☎65・4145)